

幼保一元化に関する考察（Ⅱ） ～ ベルギーの保育事情を通して～

A Study about the Educational Integration of Kindergarten and Day Nursery (2) The Children's Educational Environment in Belgium

(2010年3月31日受理)

小野 順子

Junko Ono

Key words : 幼保一元化, ベルギー, 就学前教育, 保育内容

抄 録

日本における就学前教育は、保育所と幼稚園に二元化されている。「子どもの最善の利益」を優先するためには、幼稚園と保育所の一体化・一元化が必要と考える。そこで、そのモデルとして、教育先進国のベルギーの保育制度や年齢別の保育内容、保育サービスの実態を紹介する。

ベルギーでは義務教育は6歳からであるが、2歳半から通学可能な幼児保育園は就学前教育を担っている施設として位置づけられている。つまり、希望する全ての子どもが通学することが可能である。そのため、家庭の保育事情に対応して通常の保育時間だけでなく朝・昼・夕の保育サービスがある。日本の幼稚園と保育所を合わせた施設であるといえよう。その保育カリキュラムや保育内容は就学を意識しているが、フレネー教育の影響が強いため一斉授業を前提としていない。小学校の学習内容は自主性・協調性・社会性を培うことを目的としているため、就学前の保育も自己表現・コミュニケーション・社会性がキーワードである。

I. はじめに

日本の幼保が二元化している状態は長年問題視され、幼保一元化に向けて動きが見られるが、「子どもの最善の利益」のためには幼保が制度や施設面での一体化を図るだけでなく、保育内容での一元化が必要であると考えられる。そのためには0歳児～6歳児の保育・教育を国が責任をもつ制度が不可欠であると考え、前稿「幼保一元化に関する考察（Ⅰ）」では一元化された就学前教育施設のあり方について考察するモデルとしてベルギーの教育実情を紹介した。しかし、概論に終始したため、本稿ではベルギーの保育制度（主に時間外保育サービスについて）や保育内容をさらに詳しく紹介する。

ベルギーでは、就学前の幼児は全員がEnseignement Maternelと呼ばれる施設に通っており、それぞれの家庭

の事情に合わせてGarderieを利用している。保育・教育制度に保護者が合わせるのではなく、多様なサービスから各自が取捨選択している。このサービスの実際と利用者の思いを明確にすることは日本の幼稚園・保育所のあり方を検討する材料になると考える。

II. 教育・保育について

1. 教育制度の概要

ベルギーの教育制度については前稿で詳しく述べているので、本稿では簡単に紹介する。

義務教育は6歳からであるが、2歳半から通学可能な幼児教育は、Enseignement Maternelと呼ばれ日本でいう幼稚園教育にあたる。小学校に併設されていることが多く、就学前教育を担っている施設として位置づけられ

ている。希望する全ての子どもの通学を可能にするため、家庭の保育事情に対応して保育時間等は日本の保育所に相当する。日本の幼稚園と保育所を合わせた施設であるといえよう。自治体国際化協会編集の「欧州連合諸国における就学前の幼児教育と保育制度」では「幼児保育園」と訳している。そこで、本稿ではEnseignement Maternelを同様に「幼児保育園」と訳することとする。また、同書にはベルギーの幼児保育園についての紹介がある。それを以下に記す。

ベルギーの教育¹

名 称	幼児保育園 (公用語の仏独蘭の3種類ある) Enseignement Maternel Kinder garuten Kleuteronderwijs
関係法律	学校法 (1959)
監督・管理機関	監督・地域協同体教育省 (3語圏別) 経営・カトリック教会, 地域共同体又は地方自治体
開 校 日	週5日, 週1回半日, 年間182日以上
開 校 時 間	8:30~12:00, 13:30~15:30
授業・保育料金	無料 (給食, 交通費は一部保護者負担)
教員・児童比率	教員1人 児童19人 教員2人 児童26~38人
教 員 資 格	教員養成大学卒 (3年間の教育)
教科課程作成機関	国: 教育の一般目的を規定 地域共同体: 詳細を規定し, 国の承認を受ける。
施設設置基準	規定なし
就 学 率	2~3歳 95% 4歳~ 100%

幼児保育園の教育目標は園による差はあるものの概ね「子どもの可能性の開発, 学校に行くための能力の開発, 認知力と社会適応力の開発」である。一人ひとりの子どもの不得意な部分を見つけ, 指導することを基本としている。2歳半になった日から入園可能であるため最初の1年はMaternelle Accueil (幼児保育園準備クラス) と呼ばれ, 9月の新学年当初は少ない人数で始まるが, どんどん増えていく。3歳からは, 順にMaternelle 1, 2, 3, (幼児保育園1年生, 2年生, 3年生) と呼ばれ,

同じ年に生まれた子供が同学年となるが, 幼児保育園から落第の制度があるため年長の子どもも混在する。落第については後に述べる。

学校の時間は月・火・木・金は8:30~12:30, 13:30~15:30, 水は午前中のみである。しかしGarderieという制度があり, 保護者は概ね7時から18時まで安心して子どもを学校に任すことができる。本稿ではGarderieを学童保育と訳す。

2. 教育思想

ベルギーで教育に携わる者は何らかの形でフレネーの教育思想に影響を受けている。フレネー教育を実践していると明記している学校や幼児保育園もあるが, それ以外の学校でも「フレネーの考えを実践する教師は多い」²

フレネー教育とは, フランス人のフレネーが1947年創立の小学校で実践した新しい教育法である。個の自主性と創造性を育てるとともに協調性を養うことによって, 社会に適応し貢献できる人間の育成を目指している。具体的目標は「①自己を表現する力を育てる②コミュニケーションをする力を育てる③社会性を育てる」である。①の育成のために, 幼児保育園では絵による表現, 小学校では作文による表現を重視している。②の育成については, 「人の話を聞くこと」を重視し, グループ学習を中心にした授業を行うことによって, 「互いの意見を尊重すること」を学ぶ。③の育成については, 子どもの興味や進度を重視している。その日の時間割を, 子どもと教師が話し合うことで決定し, 自分から進んで行う学習により, クラスの一人ひとりの協力によって授業が成り立ち, また学校生活が成り立っているという意識を持たせている。

3. 現地学校の概要

Institut ST Julien Parnasse (サン・ジュリアン学校) のCirculaires concernant l'annee scolaire (学校概要) を訳し, ベルギーの首都, ブラッセルのワロン語系地区にあるカトリック教会立自由学校の保育を紹介する。文中の2e maternelleは正式には就学前教育センター 第2学年と訳すところであるが, 子どもの年齢を理解しやすくするために「幼児保育園 年中」と訳して

いる。

1. 授業時間

Sections maternelle & primaire (幼児保育園と小学校) の正規授業時間は

8:30～11:50, 13:30～15:50

Garderie (学童保育) は全日7:15～8:30と15:50～18:00に開設されています。

2. 水曜日の活動

4歳から12歳までの全ての子どもに対して区の放課後活動に参加できます。募集があった際にはお知らせします。

3. 水泳

2e maternelle (幼児保育園 年中) から水泳のクラスがあります。これは小学校終了まで続きます。

25歳泳げない子どもは赤い水泳帽子をかぶってください。帽子は学校で販売しています。(50F)

4. 体操

ユニホームがあります。学校のイニシャル入りの白Tシャツと青又は黒のショートパンツです。Tシャツは250Fで販売しています。(実際には一枚目は無料で配布された)

5. 食事

昼休みに学校で昼食を食べる子どもは弁当を持参するか給食を利用することができます。

6. 学年別行事

- ・海の学校 幼児保育園の年長
- ・野外学校 小学校4年生
- ・雪の学校 小学校6年生

7. 休暇

- ・Fête de la Communauté française (フランス共同体の休み)
9月27日
- ・Congé de Toussaint (感謝祭の休み)

10月29日～11月1日

- ・Congé de Noël (クリスマスの休み)

12月23日～1月3日

- ・Congé de Carnaval (謝肉祭の休み)

3月2日～6日

- ・Congé de Pâques (復活祭の休み)

4月13日～24日

- ・Congé de réguliers (国の祝日)

11月11日, 5月1日

5月28日～5月29日

6月8日, 10月28日

Fête de la Communauté française以外の全ての休みについて学童保育がありますが、給食はないのでお弁当を持参下さい。

8. 食事と学童保育の費用

①給食: 1日 100F (約300円)

②夕方の学童保育: 1家族1日50F (150円)

15:50～18:00

③朝と昼の学童保育: 1家族1日20F (60円)

7:15～8:00または昼休みの間

④水曜日の学童保育: 60F 放課後活動に参加しない子ども
30F 放課後活動に参加する子ども

⑤急な用事で食事や学童保育を利用する方はその都度料金を払ってください。

4. 保育の実際

3で述べたように、Circulaires concernant l'année scolaire(学校概要)には、Institut ST Julien Parnasse(サン・ジュリアン学校)というSections maternelle & primaire (幼児保育園と小学校)において、2歳半～12歳の全ての子どもが、学童保育や給食と言った教育サービスを受けることができるとの記述が見られる。

次に、サン・ジュリアン学校の保育の実際について、Sections maternelle A, 1, 2, 3, primaire 1 (幼児保育園準備クラス2歳半～小学校1年生)での保育を紹介する。1日の流れやその時々様子は前稿で述べたので、本稿では学年別の保育の様子と年間行事について述べることにする。

1) Maternelle Accueil & 1e

幼児保育園準備クラスと1学年（3歳児クラス）

前述のフレネー教育の基礎である「個の自主性と創造性を育てる」ことを主とした保育と思われる。

登園後は自分で見つけた遊びを一人もしくは気の合う友だちと遊ぶことで、一日が過ぎている。教師は子どもの発想を実現したり、人間関係のトラブルを解決したりする援助を行っているようである。ただし、2歳半から4歳までの幼い子どもの集団であるので、生活の自立に関する援助（例：排泄，服の着脱）がほとんどである。



写真1 登園の様子



写真2 登園後、学校開始までの学童保育の部屋



写真3 Maternelle Accueil（幼児保育園準備クラス）の部屋～子どもたちは自由に遊んでいる～

2) Maternelle 2e 幼児保育園2学年（4歳児クラス）

このクラスの部屋には多くの机がある。自分が見つけた遊びを行うことは基本であるが、その遊びの中に数を認識したり、文字を書いたりするための基礎トレーニングが入っている。ゲームや迷路、お絵かきの形で遊びとして部屋に用意されているが、それを行うことで小学校への学習の準備となるよう計画されている。興味のある子どもだけが行う形式であるが、教師の誘導もあるようで、ほとんどの子どもが毎日自分の書いたプリントを家に持ち帰っている。

数の認識に関しては、図1, 2に見られるような同じ数を見つけたり、書いたりする物があり、文字を書く準備として図3に見られるような点線をなぞるものや、図4に見られるような形を認識して再現するものが多くあった。



写真4 Maternelle 2e 幼児保育園2学年（4歳児）の部屋～机が多く、大きな遊具が少ない～

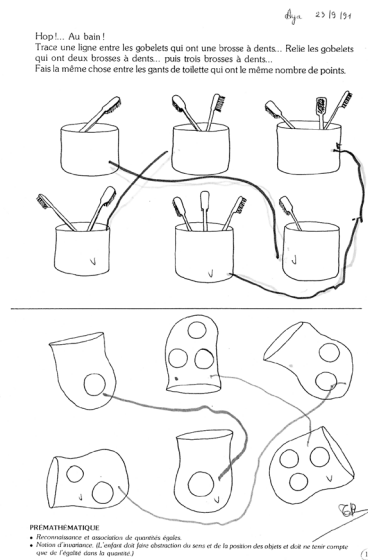


図 1

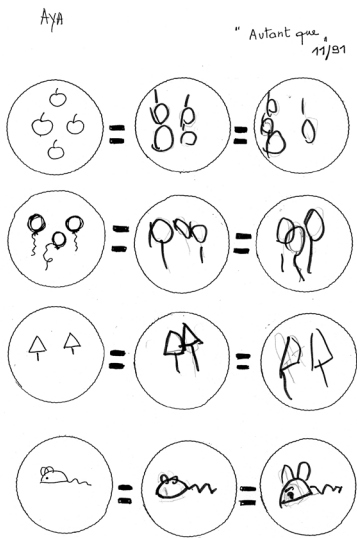


図 2

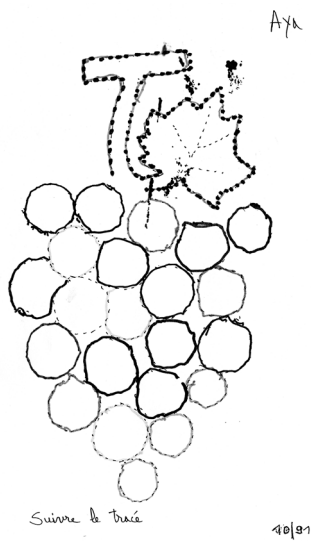


図 3

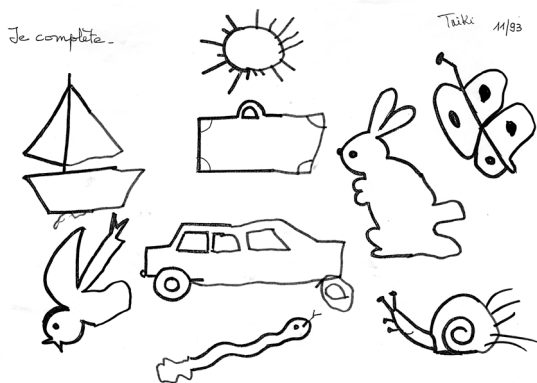


図 4

3) Maternelle 3e 幼児保育園3学年 (5歳児)

この学年は小学校への準備のための保育が行われている。部屋の中には遊具がほとんどなく、大きな机が面積をとっている。(写真は前稿を参照)

大きな机は座るグループが決まっており、朝の集会での話もそのグループごとに行われている。ここにフレネー教育のグループ学習への連携の意図を見ることができる。

朝の集会や当番活動の後には、自分で見つけた遊びをするが、年少児のような遊びはほとんど見られず、絵を描く、算数や文字のプリントをするといった学習を意識した遊びが主である。例えば、図5は物の大小や規則性を判断し、表現する力を培う内容である。また、図6は右・左・上・下を判断し色で表現する力を培う内容である。さらに、図7ではベルギーの小学校算数の特色であるキズネール棒に親しませる内容となっている。

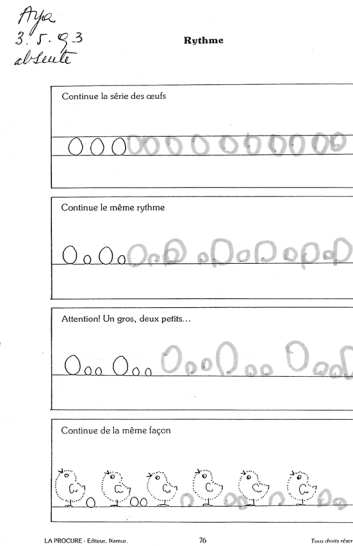


図5 リズムという題で次に続く形を核問題

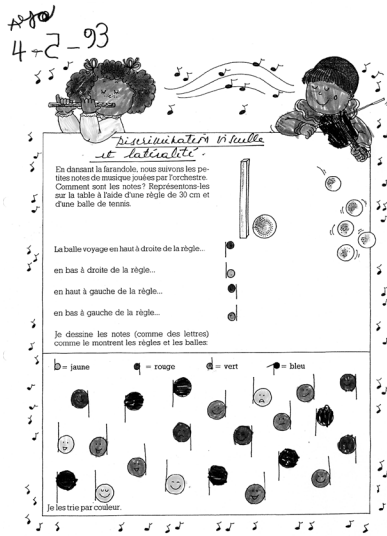


図6 右の上は青、右の下は黄色と位置によって指定された色を塗る。

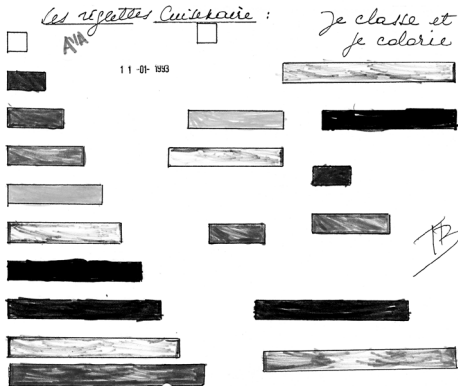


図7 キズネール棒と同じように色を塗ることで、小学校算数で重要なキズネール棒の色を覚える。

4) Primarire 1e (小学校1学年)

幼児保育園を併設している小学校が多いので、幼児保育園と同じ建物であることが多い。そのため、就学前と後で環境が大きく変化することは少ない。しかし、部屋に入ると一人ひとりに机があり、遊具がなくなるので学習の雰囲気は多くなる。日本のように机が全て前を向いていることはなく、自分で見つけた学習をするための机であるため、写真5のようにひとつだけ離れたところにあたり、何人かでくっつけていたりしている。



写真5 Primarire 1e (小学校1学年) 部屋の様子 (カーニバルの時なので、子どもは変装して授業を受けている)

国語の授業

部屋の後ろの壁面に白い板が張られている。その前に子どもたちを座らせ、OHPでその板にお母さんにだっこされている男の子の絵を移し、子どもたちに思ったことを発表させる。「ママがだっこしている」「男の子をだっこしている」… 発言中に声を出す子どもがいると教師は「シー」と言って注意していた。

その後、教師は「この人は誰？」と質問し、子どもたちが「ママン」と答えると「Maman」の文字を写す。教師の合図で「ママン」と子どもは唱和する。その後、さらに思ったことを発表させ、その絵にあった簡単な一文が絵の下に映し出される。教師が読み、子どもたちが声に出す。子どもの発言を大事にし、ひとつひとつ丁寧に受け答えをしていた。また、この時間は「読み」の授業であるので、ノートに書き取ることや文法的なことはしない。日本の国語の授業のように読む・書く・話すを同じ時間に教えるのではなく、分化していることが興味深かった。

「書く」授業では、日本と同様にアルファベットをひとつひとつ練習することから始めている。(図8参照)

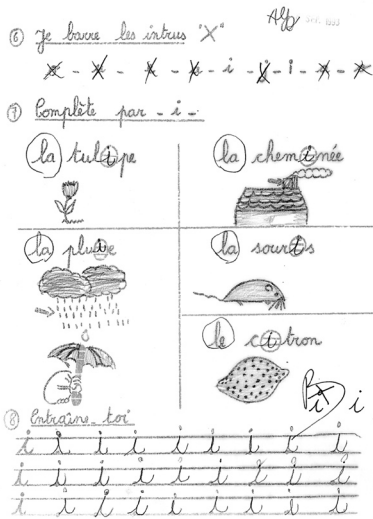


図8 iの練習 どんな単語に含まれているか考える問題

算数の授業

キズネール棒による数の認識，計算がベルギーの算数の特色である。キズネール棒とは「ベルギー人の教育事業家キズネールによって創案され，ロンドン大学ガットノー博士によって数学的，教育的，心理的意味づけなどがなされた」ものである。これは木でできた10種類の棒である。1 cmの立方体をつないだ形であり，1 cmから10 cmまでそれぞれ長さとも色が異なる。この棒を組み合わせて，長い棒と比較することで10までの数を使った「足し

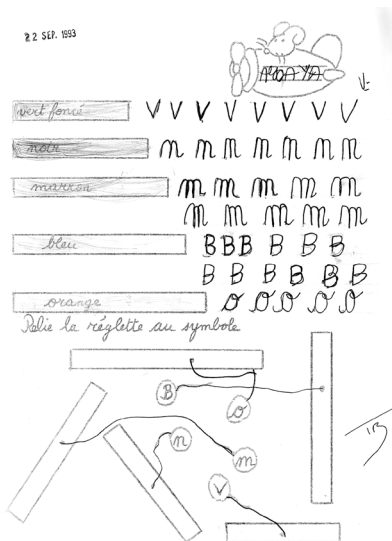


図9 棒はその色の頭文字で呼ばれるので，まず棒の名前を覚えるために実際の棒を手にしながらこのようなプリントをする。

算・引き算・かけ算・割り算」を具体的に理解する。初めは数字ではなく数を表した棒の色でその数を表現するので，子どもはゲーム感覚でプリントに取り組んでいる。(図9，10，11参照)

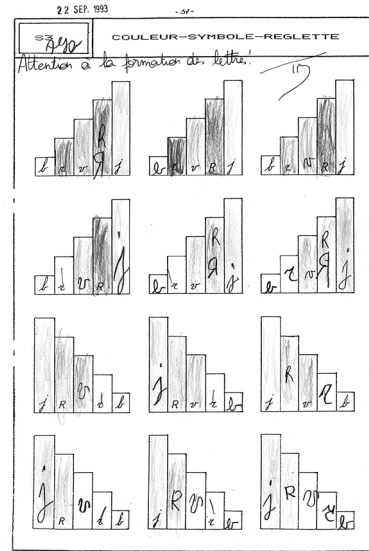


図10 白 (blanc) は1を表すので，そこから考えて他の棒の名前を考え書く問題である。

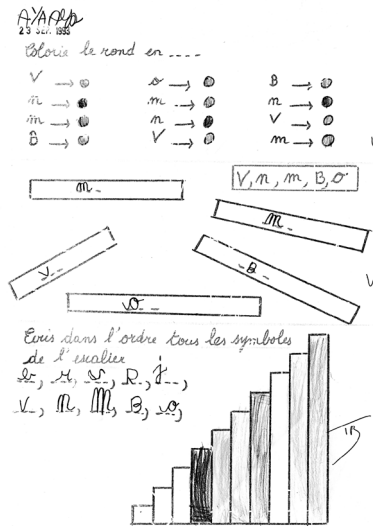


図11 頭文字の色を判断し，それを棒の名前と一致させる問題である。

キズネール棒で数を具体化する練習の後はサイコロの1の目を集めた様なカードを使って，10までの数に慣れ親しませている。数の大小関係を調べたり，10になる数の組み合わせを見つけたりする。数のグループ分けや共

通の性質を見つける力を養うことを目的にしている様である。(図12参照)

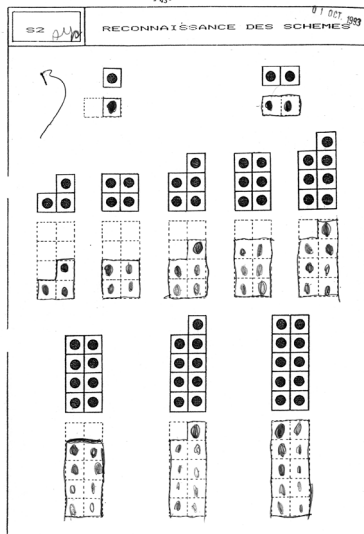


図12 サイコロカードによる数の認識

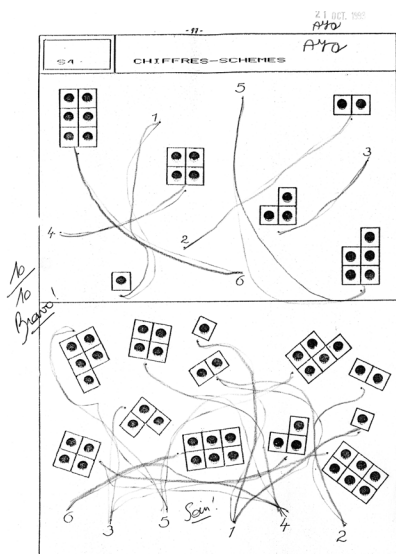


図13 カードの数と数字を理解する。

5) 年間行事

入学式・始業式 (9月1日)

2ヶ月の夏休みが終わり、久しぶりに幼児保育園や学校に行く日が始業式であり、入学式である。小学校はその年に6歳になる子どもが9月1日より新1年になるので、全員が入学するが、幼児保育園は2歳半になった日から入学できるため、9月1日に入学する子どもは少数である。

入学式の様子をベルギー在住時に書いたNouvelles du Pays de la Forêt de Soignes (ベルギーだより) より抜粋する。

「入学式の案内がなかったので、何もないと思っていましたが、やはり、娘が小学校に入学するというのは、親として何か節目となるような気がしたので、学校の初日には、子どもにいつもより少し綺麗な服を着せ、カメラを片手に送っていった後、学校に残りました。すると、ベルギー人も普段よりたくさんの親が子どもについて残っていました。しかし、カメラやビデオはあまり見かけませんでした。新一年生がぴかぴかの鞆を重そうに持ってはしゃいでいるのは日本と同じです。幼児保育園から同じクラスだった子どもが3分の2くらいを占めていたので、娘はほとんど緊張しなかったようです。朝の集会の時に新しい担任の先生から、昼食はどうするのか、朝・夕のGarderie (学童保育) は利用するのかなど簡単な質問を個人的に受けて、親の役目は終わりです。始業の鐘が鳴ると、整列し、先生を前に各々のクラスへ入っていき、その後は普段通り4時まで学校はありました。やはり、日本のような式典はありませんでした。」⁴

Réunion des Parents (保護者会) (10月半ば)

金曜日の夜や日曜日に保護者会が企画される。内容はこれから行われる行事の準備・日程の説明や終了した行事の報告、また季候の良いときには園庭で軽食を摂りながらの座談会もある。クラス役員を中心に企画、運営される。

Saint Nicolas (サン・ニコラ) 集会 (12月5日)

ベルギーではクリスマス前の12月5日にサン・ニコラの祭りがある。4世紀頃、子ども好きのサン・ニコラが貧しい人を救済したという逸話が起源となり、この日をサン・ニコラを称える日として祝う行事である。ベルギーではクリスマスより盛大に様々な催しが行われる。学校でも同様に、サン・ニコラ集会があり校長先生の話の後サン・ニコラに扮した先生から子どもたちにお菓子が振る舞われる。カトリック教徒が多いベルギーではクリスマスは聖夜として静かに教会や家族で祝う物であるので、このサン・ニコラの祭りは日本のクリスマスの様に賑やかで大人も子どもも楽しみにしている。12月にはい

ると学校や園で歌う歌や描く絵だけでなく、勉強のプリント類もサン・ニコラに関連した物になる。(図14参照)

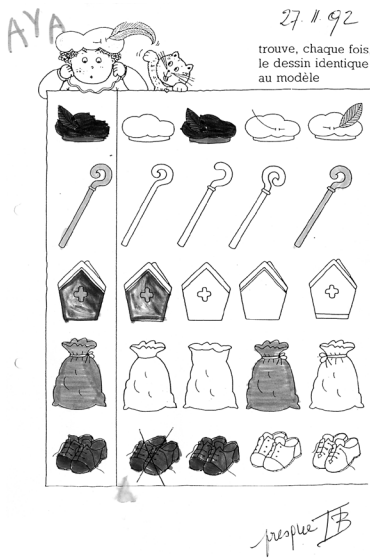


図14 同じ形を見つける問題 全てサン・ニコラの持ち物である。(Maternelle 2e 幼児保育園 2 学年(4 歳児))

Carnaval (カーニバル) 集会 (2 月末)

この日は家から仮装をして登園し、先生も子どもも一日中その仮装のまま授業を受ける。幼児保育園では午前中に集会があるが、難しい話はなく音楽に合わせて歌ったり踊ったりして仮装パーティのようであった。(写真 6, 7 参照)



写真 6 仮装して登園する子どもと迎える先生



写真 7 カーニバル集会の様子

Fête du Printems (春のお祭り) (5 月半ば)

日本の学芸会を園庭でするような行事である。幼小合同で園庭(校庭)で行われる。日々の授業で練習した演目を集まった保護者や地域の人の前子どもたちが披露する。食堂はレストランとなり昼はフライドポテトやホットドックなどの軽食、午後はカフェテリア、夕方は軽めの食事を提供する。地域を巻き込んでの学校行事である。(写真 8 参照)



写真 8 校庭で演技する子どもたち

Classes de Mer (海の学校) (7 月上旬)

Maternelle 3e 幼児保育園 3 学年 (5 歳児) の学年末に行なわれる。海岸近くの施設に、子どもと教員そして手伝いの保護者数人で 3 泊 4 日の宿泊研修に出かける。ほとんどの幼児はこの時が初めての集団宿泊研修である。日程は以下の通りである。

1 日目

- 8時半 貸し切りバスで園を出発。初めての経験のためか、子どもよりも保護者が涙ぐんでいる。
- 午後 砂浜で砂遊び（写真9参照）
- 17時 宿舎に帰り、シャワーを浴びる。
- 18時 夕食
- 19時 歯を磨いてから、歌、ダンス、簡単なゲーム
- 20時 就寝

2 日目

- 7時半 起床、トイレ、ベットの片付け
- 8時 朝食
- 9時 Tram（路面電車）に乗って町の朝市見学
- 13時 宿舎で昼食
- 午後 砂浜でスポーツ
- 17時半 宿舎に帰り、シャワーを浴び、夕食
- 19時 人形劇を見る
- 20時 就寝

3 日目

- 9時 Zwin公園に行き、ミニトレインに乗ったり、遊具で遊ぶ。
- 13時 昼食
- 14時半 砂浜や宿舎で、好きな遊びをする
- 17時半 宿舎に帰り、シャワーを浴び、夕食
- 19時 文字や数の練習プリントをしたり、絵を描いたりして遊ぶ。
- 20時 就寝

4 日目

- 7時半 起床、トイレ、ベッドの片付け
- 8時 朝食
- 9時 荷物を片付けて、貸し切りバスで園へ帰る途中、交通公園で遊び、園への到着は15時半である

幼児保育園における最大の行事であるため、事前に保護者会が開かれ、持ち物や生活についての説明がされた。ベルギーでは少子化の傾向があるため、子どもは家庭で

過保護気味に育てられており、この研修で生活習慣の自立を促す意図もあるようである。

研修終了後も保護者会があり、スライドを見ながら研修内容の報告や座談会が行われた。どの保護者も自分の子どもが成長したこと、自分が寂しかったことを口々に話していた。印象的であったのは片親以外の家庭は全員両親が参加していたことである。2人で育児をすることが当然という雰囲気であった。



写真9 砂浜でダイナミックに砂遊びをする子どもたち

卒業式（6月末日）

6月30日で学年が終わり、長い夏休みとなる。6月30日が幼児保育園の卒業であったので、何か行事があるかと思い、学校の授業を参観したが、そのようなことをする保護者は誰もいなかった。6月にはいるとバカンスになる会社が多いため、ほとんどの子どもと保護者が学校を休みバカンスに出かけているからである。1つのクラスで6月1日には2人、15日くらいには5人の子どもがバカンスのため学校を休んでいた。そして、6月の最終週には3分の2に減り、6月30日には半分以下の出席しかない状態である。従って、卒業に関する行事らしきものは何もなく、普段通りの授業であった。

入学準備

幼児保育園は小学校に併設されているので6月に入った頃、このままこの学校に残るのか、他の学校に行くのかという調査があった。このまま続けるという返事を出す次のようなリストが渡され、これに基づいて入学準備を行った。

これらは全てスーパーや文具店で保護者が買い揃える。

1年生で必要なもの（全部に名前を書くこと）

・カバン A4のファイルが2つ入るように、大きな容量のものを選んでください。・色鉛筆（赤、黄緑、緑、ピンク、黒、黄、茶、青、オレンジ）・水彩絵の具（絵筆大小1本ずつ、プラスチックの入れ物）・よく削ってある鉛筆3本・12色のマジックペン・万年筆・鉛筆削り・消しゴム・30cmのものさし・よく切れるはさみ（先が丸いもの）・スティックのり・プラスチックの紙はさみ・2つ穴のファイル・大きな靴が入っていた箱（絵の具の道具を入れるため）・ぞうきん・ゴミ袋・ノートのカバー赤（筆記）緑（詩）黄（聞き取り）青（聞き取りの練習）好きな絵柄（連絡帳）

－体育のために－

・ひものない白の上履き・紺色の短パン・学校のマークの入ったTシャツ

－学校の最初の日に持ってくるもの－

・筆箱（中身を全部入れて）・のり

－水泳について－

①小学校1,2年生は水泳に行きます。25メートル泳げない子どもは安全のため赤い帽子をかぶらせてください。この帽子は学校でも売っています。

②水泳の時に持っていくもの（全部に名前を書いてください）・カバン・水着・帽子・タオル・腕にする浮き輪（浮き輪は膨らませておいてください）

プレベルの教育制度を日本で確立するためには個人や地域で模索することも必要であると考えます。

引用文献

¹自治体国際協会：欧州連合諸国における就学前の幼児教育と保育制度，CLAIR SUMMARY Number 013(1996) pp10

²浦谷信一他6名：CLAIR VIVRER 校，ベルギーの教育（1991）pp, 34

³常葉学園海外教育研修収録

2010年3月末時点でのアドレスは以下の通り<http://www.tokoha-u.ac.jp/course/wp-content/uploads/2009>

⁴小野大・小野順子，Nouvelles du Pays de la Forêt de Soignes(1994) pp51

Ⅲ. おわりに

EUの中心に位置するベルギーは、2つの民族、3つの公用語、3つのコミュニティという複雑な行政制度にも関わらず、国内に住む全ての幼児に一貫した保育・教育を提供している。前稿、本稿でベルギーの就学前教育施設の実態を紹介し、幼児や保護者の負担（精神的・身体的・経済的）が少ない教育制度の具体例を示し、日本の幼保一元化の未来像を検討する材料とした。また、就学前と就学後の教育の連続性への配慮も参考になると考える。保幼の一元化と小学校への連続は国家レベルの取り組みが必要であろう。しかし、世界に目を向け、世界でトッ

